

蛇と鯰の水争い



明日香（飛鳥）には、不思議な形をした石造物が多数ある。製作年代も用途も分かっていない。「猿石」「鬼の雪隠・俎」「酒船石」「二面石」……と、名前を聞いただけでも想像力をかきたてられる。

そんな中の一つ、川原の地にある「亀石」。亀がうづくまっ

昔、大和盆地がまだ大きな湖沼だったころ、ここにたくさん

の亀が棲んでいた。ある時、「自分たちこそが大和の主だ」と、お互いに主張する當麻の蛇と、川原の鯰が、争いを始めた。湖沼の支配権をめぐるこの戦いは、蛇、鯰とも、一族の命運を賭ける熾烈な総力戦となった。

やがて、蛇が勝利した。蛇は湖沼の水をすべて當麻に移してしまった。負けた鯰の住む川原は水が涸れて、からからに、とんだとばっちりを受けたのが、この地に棲む亀たちだ。水がなくて生きていけない。地

表におびただしい数の亀の無残な姿があった。この亀たちの霊を供養しようと造られたのが、亀石という。

今も、南西を向いている亀石が、もし西を向いて當麻の方向を睨めば、一帯はまたもとの湖沼に戻ると伝えられている。

* 亀石に限らず、明日香に点在する多くの謎の石造物には、それぞれユーモラスな伝承や自由な解釈がある。

だが、それより何より、日本誕生の古代史の舞台である明日香そのものが、今も多くの謎を



川原寺跡の西、畑の中の道沿いにある亀石。川原寺の四至(所領の四方の境界)を示す標石ではないかという説もある。



春を迎えた明日香。れんげや菜の花が咲き、夢のような時間がゆったりと過ぎていく。

亀石へは、近鉄吉野線岡寺駅より東へ約1.5km。明日香村の名所めぐりには明日香周遊バス「赤かめ」（橿原神宮前駅または飛鳥駅より乗車）が便利です。

